

平成27年度学校評価結果分析と改善方策（教職員）

岩手県立宮古工業高等学校

1 回収率 100%(41/41)

2 総評(全体の傾向)

宮古工業高校は、震災から4年を過ぎ、復旧・復興に向け、これまで全国から多くの支援を受けながら積極的に復興交流事業に取り組んできた。その過程で学校の施設設備が順調に復旧し、被災前の状態に戻りつつある。また、PTA、同窓会、地域の皆様等のご支援と、生徒及び教職員の努力により、保護者・地域に信頼される学校として、本校の教育活動の成果が顕著なものとなった。

職員によるアンケートでは、全項目の評価平均が5点満点の3.12となり、昨年よりも0.13ポイント、2年連続で向上している。教職員間における、連携・協力を奨励し、各種行事の内容・日程及び校務運営全般の企画・調整、教育課程の検討、コンプライアンスをはじめとする各種研修、進路指導、「山ぼうし」などの広報活動等の充実により、「保護者・地域への情報発信、学校評価を反映」「教職員の共同と融和で明るい職場の構築」などの評価が高くなった。それとは逆に、「適切な課題等による家庭学習の習慣化」は0.17ポイント減少し、判定がCとなった。生徒の能力や到達目標等を勘案し、適切な指導方法の検討が必要である。

また、専門性の基礎基本を重視し、その定着を図るとともに、地域産業や地域社会との連携・交流を通じた「きめ細かい進路指導の展開」を実践し、早い時期の進路決定100%を達成した。さらに、生徒の部活動や課外活動も充実した活動をしており、資格取得においても具体的な目標を持って取り組んだ結果、ジュニアマイスター取得者が昨年の28名から35名と大きく増加した。幾多の困難を克服しながらも、しっかりと教育活動、復旧交流事業に取り組んできた教職員の多忙化解消も含めた職場環境の改善にも取り組む必要がある。

今後とも、生徒一人ひとりの心のケアに十分配慮しながら、自らの可能性を見出し、個性の伸張を図ることができる教育を行うとともに、多様な生徒が共に学ぶ場を充実させ、現代社会に求められているコミュニケーション能力を伸ばし、他者への理解を深めることで社会の一員としての自覚を育て、生徒や保護者、同窓生、そして市民及び県民の皆様の期待に応えられる教育を推進していきたいと考えている。

重点目標	具体的目標等	課題	改善方策等
信頼される者・地域学校に	1 奉仕活動による心豊かな人間性を育む	①クリーン作戦の工夫 ②一過性の行事に終わりがち	→ 地域との連携を深め、クリーン作戦の充実を目指す。 → 計画的な奉仕活動を実践する。各種大会で学校の取り組みを紹介する。
	2 外部からの協力依頼への積極的対応	①件数は減少傾向にあるが対応には一考が必要 ②内容の精選が必要	→ 支援される側の視点を適時・適切に発信する。 → 依頼事案の精選及び内容等を十分に吟味する。
	3 家庭との連携を深め一人ひとりを大切にしたい心のケア	①家庭との連携を取れないケース ②一人ひとりを大切にしているが届かない部分もある	→ ケーススタディ研修会あるいは情報共有の機会をもつ。 → 家庭との情報交換を密にし心のケアに努める。 → 生徒理解に努め必要に応じて関連諸機関との連携を行う。
	4 保護者・地域への情報発信、学校評価のニーズを反映	①学年PTAの参加率が低調 ②保護者や地域へのより一層の情報発信 ③中学校卒業予定者数の減少に向けた取り組み	→ 情報発信方法として導入した一斉配信メールの情報発信方法を構築する。 → 中学校へ工業高校と生徒の活躍等を効果的に周知する。 → 宮古・下閉伊モノづくりネットワークとの連携を深める。
基礎学力の向上	5 主体的に授業に取り組む姿勢・態度の育成	①育成方法の創意工夫 ②課題に追われる生徒が多い	→ 生徒理解をベースに一人一人の目標をより具体的に設定する。 → 各種研修や互見授業等を通して指導力向上に努める。 → 基礎学力向上の取り組みを継続する。
	6 生徒の実態に応じたわかる授業の展開	①生徒のレベル差に対応した授業 ②「考えること」を克服しきれていない	→ 個別指導の充実や教材研究をより一層深める。 → 各種研修や互見授業等を通して指導力向上に努める。 → 学校教育室の指導主事や教育センターの研修指導主事を活用する。
	7 適切な課題等による家庭学習の習慣化	①基礎学力不足 ②家庭学習が定着していない ③学力の分析と適切な指導	→ 担任、教科、教務等が連携して生徒の情報を共有する。授業と家庭学習の連携について有効な指導法や適切な課題等について引き続き改善策を検討する。 → 小学校・中学校との連携や県内外の先進校の視察等を行い研修を深め
	8 朝読書と落ち着いて学習に臨む雰囲気づくり	①朝読書の意義や実施方法の再点検 ②「読む」段階から「書く」「話す」段階への移行	→ 朝読書の意義を生徒に理解させることや課題設定などを工夫する。 → 学んだことを活用し課題解決ができる経験を数多くもたせる。
社会的生活習慣と醸成	9 生徒指導の徹底（非行防止、整容指導、挨拶の励行、時間厳守）	①時間に対する意識が低い ②いつでもどこでもだれでもが徹底されていない	→ 毎日の指導や各種研修を通して担任力の向上に努める。 → 保護者の協力を得ながら教職員全員の共通理解の下に整容指導等を行う。
	10 HR・生徒会活動・部活動を通して人格形成	①諸活動への積極的な参加 ②部活動への意識が低い	→ 学校行事、学校間交流として各種大会等を通して生徒一人一人が自分の役割を自覚し確実に実行することができるよう支援する。
	11 教育体制充実等による不登校や退学者の防止	①環境の変化に適応できない生徒が多い ②保護者や教育相談(SC)と連携した対応が必要	→ 生徒一人一人の悩みや課題を早期に発見し、教育相談や関連諸機関との小中学校や地域との連携を密にする。 → 生徒の動向の観察と情報共有を密にする。
	12 安全な学校生活（交通ルール、人命尊重）	①安全指導の徹底が必要 ②教職員全員での指導	→ 家庭、学校、地域が連携した指導体制を維持発展させる。 → 教職員が連携し小さなことを見逃さない指導体制を確立する。
	13 5Sの徹底による学習環境づくり	①努力しているが徹底できていない ②5Sの周知	→ 放送委員会を積極的に活用する。HRの整理整頓を確実に実行する。 → 標語等を校舎内に貼り出す。
	14 健全育成に係る外部講師の招聘	①招聘は順調であり継続性が必要	→ 関係諸機関（生活安全課、教育センター、県教委等）を積極的に活用する。
進路意識の早期育成と進路実現	15 きめ細かい進路指導の展開	①進学者に対する指導体制の充実 ②指導展開は良好であるが進路指導の工夫が必要	→ 的確な進路指導計画に基づき、担任・各科・学年団・進路指導課等が密接に連携し、適時・適切な進路指導を行う。
	16 早期の目標による全員の進路実現	①早期目標確立に向けた指導（一部の生徒）	→ 家庭との意思疎通を図りながら個別指導を充実させる。 → 就職動向、経済情勢、地域のニーズ等を的確に分析し情報提供する。 → 担任や進路指導課を中心に有効適切な指導を綿密かつ継続的に行う。
	17 外部や地域との連携で職業観・勤労観の育成	①連携は良好であり継続性が必要	→ 産業支援センター、宮古・下閉伊モノづくりネットワーク等の外部講師を有効に活用し生徒及び保護者の進路意識の向上・育成に努める。
	18 資格取得の充実により向上心や目的意識を育成	①合格率の向上 ②生徒の意欲の向上	→ 資格取得ではその過程が大切であることを理解させる。 → 資格取得のための指導方法の工夫や講習会等を充実させる。
	19 卒業生の定着状況の把握と活用	①早期離職対策（一部の卒業生） ②情報の共有	→ 卒業後も定期的に本人や企業と連絡を取り合い情報を収集する。 → その情報を3年生にフィードバックする。 → 収集した情報を早期離職対策に有効に活用する。
明るくいきなり職場	20 教職員の協働と融和で明るい職場の構築	①適切な仕事の分担 ②仕事に対する教職員の共通理解	→ 面談等で仕事の分担、進捗状況を適切に見極める。 → ポジティブな発言と適切なコミュニケーションを心がけストレスが溜まらないよう工夫する。
	21 事務室との連携で円滑・適正な校務処理	①施設・設備の定期的な点検と迅速な対応 ②あり方、考え方に違いがある	→ 引き続き連携を密にし、共通理解を得ながら進める。
	22 多忙化解消（スクラップ・アンド・ビルド）	①仕事量の増加 ②スクラップすべき仕事の見直し	→ 常に仕事の効率化と見直しを図り多忙化解消の取り組みを行う。 → 教職員の共通理解をベースに進める。
	23 職員の綱紀保持（コンプライアンス）	①コンプライアンス全般に関する偏りのない理解 ②綱紀保持の誓いを引き続き堅固なものにする努力	→ 要望等を踏まえて研修内容を検討し開催時期等を適切に配置する。 → 安全点検の日、校内研修会、朝会等を引き続き有効に活用する。